

## 看護を語ろう 2月

「地域で生活を支えること」は看護師だけがいくら頑張っても出来ることではない。

そこには、多職種の連携があって初めて成り立つことである。

しかし、この「連携」こそが難しく、それぞれの認識の違いがあることを痛感している。

認識の違いを埋めるべく、地域では、多職種の勉強会、交流会が頻回に開催され、地域で暮らす人々の「生活」を支えると言う、認識（考え方、フィジカルアセスメント）を統一する努力がなされている。

そのうえで、訪問看護師はどのような連携を取っていかなければならないのか。

たとえば、医療度の高い利用者や、がんの末期のように関わる機会が多い場合は、訪問看護師が、病態変化のときには医師と連携、介護・福祉用具などの調整の時にはケアマネージャーと連携しリーダーシップをとっていかなければならない。また介護度が高い利用者の場合は、ケアマネージャー、介護事業所がリーダーシップをとれるように、適切な情報を提供していかなければならない。

この時、一番難しいのは、医療従事者と介護職者との一つ一つのものの捉え方、考え方の相違が連携の時、難しいところである。

私たち、訪問看護師は、地域で暮らす人々を、地域で支えていく為には、多職種と連携するための努力をしていかなければならない。

この努力こそが「生 老 病 死」に関わる訪問看護師、看護（生活を支える）である。